



森ボラ 通信

第250号 2023年3月20日発行
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター
TEL (fax.): (011) 816 - 7010
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

トピックス

「じょうてつの森づくりプロジェクト」1年目を振り返って

(株)じょうてつ 兼子しおり さん

私たちは2022年5月より、札幌市、NPO法人北海道森林ボランティア協会さん（以下「森ボラさん」と称します）と連携し、澄川都市環境林にて「じょうてつの森づくりプロジェクト」と称した森林整備活動を行わせていただいております。

社会の環境への関心が日々高まっているなか、当社では数年前からCO2削減に取り組んでおります。環境保全へのアクションとして企業の森林活動について調査する中で、この「澄川都市環境林」で森ボラさんが活動をされていて、企業も森林活動に参画できる事を知りました。そして驚くべき事に、この森はかつて当社が所有していた土地であったという事も知りました。

1970年(昭和45年)代頃、当時当社はこの澄川都市環境林の一部区域で宅地造成を計画しておりましたが、その計画は進まず札幌市に売却をしました。当時を想像するに、恐らく荒れた森であったでしょう。それから長い年月を経て今、森ボラさんがこうして豊かな森を守って下さっており、そして当社が再びこの森と係わりができた事に深いご縁を感じざるを得ません。



6月 草刈り



8月 地拵え



10月 植樹



2月 整理伐

2022年6月から本格的に活動が始まりました。恥ずかしながら当初は、「森林活動＝植樹」という素人の考えがありました。ところが、森ボラさんから森を育てるという事はどういう事なのか、その説明を受けてこれまでの自分の薄い知識を恥じました。当たり前のように見える景色は当たり前ではない、自然の力と人間の力を合わせて豊かな森がある、そしてそれを支えて下さっている方々がいる事、すべてが勉強の1年でした。そして、この事を社員一人一人が理解し、この活動が長く続くように根を張ること、これがこれからの課題だと思っております。そこには「楽しんでやること」も忘れてはいけません。

森ボラさんにサポートをいただきながらこの一年、延べ49名の社員が森に入り、下草刈り、地拵え、ゴミ拾い、植樹、整理伐を行わせていただきました。社員からは「疲れたけど楽しかった!」「こんな森があるなんて知らなかった」「植樹するまでにこんな過程があるのか」などの感想が出ております。スーツに身を包みパソコンと向かい合う日常とは違い、自然を感じる事は何にも代えがたい体験です。

当社には、「子供達へ明るい未来を届けられるよう社会貢献活動を行っていきます」という経営理念があります。これは、森ボラさんが掲げている、「地球環境の向上や自然との共生を願う同士が集い、森林の育成・保全を目的とした活動を展開する」という理念と相通ずるものがあります。

20年もの間活動をされている森ボラさんと肩を並べて言うのは大変おこがましいですが、この「じょうてつの森」での活動を通して、これからも豊かな森を育てていく一助になれば幸いです。2023年度もどうぞよろしくお願いいたします。

◆ 第3回冬季セミナーを開催

2月22日(水)にかでる2・7で第3回の冬季セミナーが開催されましたので報告します。

第1部は、北海道が取り組む「『ゼロカーボン北海道』の実現に向けて」です。北海道環境生活部、水産林務部より講師3名を招き、以下の内容で講演して頂きました。

*テーマ1: 『ゼロカーボン北海道』の実現に向けて

①地球温暖化とゼロカーボン北海道

地球温暖化という気候変動は北海道にも気温上昇や大雨・大雪など大きな影響を与えています。

②森林とゼロカーボン

そこで北海道は、住民や企業に「脱炭素に向けたライフスタイル・ビジネススタイルの転換につながる取り組み」のプロジェクトを呼びかけています。9つの分類と32の取り組み、4つの重点プロジェクトで構成されています。

③企業が取り組むゼロカーボン

国は、ゼロカーボンへの取り組みが、経済界へのビジネスチャンスと捉えるよう様々な施策を立てています。排出量算定シート・ゼロカーボンチャレンジャー制度・省エネ&新エネ大賞表彰などへの補助支援などです。森林ボランティアへの支援活動や環境教育支援なども含まれます。

*テーマ2: 森林吸収源対策について

北海道は、「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」です。冬季の灯油使用量や長距離を走らなければならない車の燃料代も本州に較べると断然多い地域です。それもこれも北海道の宝である森林の多さでCO₂の吸収量をまかない、そのほかに再生活用エネルギー導入・省エネ機器切り替えなどでゼロカーボンを目指すものです。我が森ぼうの森林づくり活動は、森林吸収減対策に大いに貢献するものばかりです。

*テーマ3: 『ゼロカーボン・チャレンジャー制度』について

企業は、「ゼロカーボン」にチャレンジ登録することにより、公共工事への有利な落札参加と、金融機関からの金利優遇を得られるようです。道内の多くの建設業・製造業など603事業所(2/22現在)が宣誓・登録しているそうです。2020年表明の2050年までの北海道の取り組みですが2030年までの程度進むのかが楽しみです。

我が森ぼうの活動が、CO₂を効果的に吸収し、脱炭素によって地球温暖化の防止に貢献できるとするならば素晴らしいものです。



ゼロカーボン北海道の取り組みを学ぶ



野幌森林公園の自然を学ぶ

第2部は、野幌森林公園自然ふれあい交流館の小川由真さんによる「野幌の自然～草花を中心に」のお話を頂きました。

野幌森林公園が現在のように広大な面積を有するのは、先人の努力の賜物であることを知りました。後半の森林公園に生息する動植物の紹介写真は種類の多さとアングルの素晴らしさも圧巻でした。本当に驚きです。植物の見分け方では、冬の動物では、いろいろなアングルの写真も豊富で分かりやすく交流館を訪れる皆さんのように私たちに紹介してくれました。

セミナーの後は講師の小川さんも交えて、久しぶりに有志による懇親会が開かれ、和気藹々のうちにお開きとなりました。(文・山崎)

◆ 2022 年度第 7 回（最終回）親子森林教室の活動報告

樹液で春の森を味わい、修了式を行う

3月5日、雲一つない水色の空が広がる中で、今年度最終回の第7回親子森林教室が、森しり隊員13名、保護者11名、森ボラ協会員14名の計38名が参加して開催されました。テーマは「森の春の目覚めを感じ1年間のまとめをする」です。

最初の活動はイタヤカエデから樹液を採取することです。上流橋に向けて林道を少し入ったところ（B-6, C-2区）に予め選定したイタヤカエデの傍で、清澤隊長から樹液は根が吸い上げる養分を含む水で、春に芽吹くためにこの時期に盛んに吸い上げること、楓の樹液は煮詰めてメープルシロップになることなどの説明があった後に、3班に分かれて、各班2本ずつの木から樹液を採取することになりました。班長から手順の説明を受けて、ドリルで木に穴を開ける役、樹液採取装置のスパイルを木槌で打ち込む役、スパイルにホースを取り付ける役、ホースを小ポリタンクに差し込む役、タンクを受ける籠にひもを通して木に括り付ける役と分担して作業を手際よく進めました。スパイルを打ち込むとすぐに樹液があふれ出てくる木もあり、歓声を上げながら指で受けて味見していました。

次の「春の目覚めを感じる」活動は、冬芽の観察です。西野澄子さんが用意したシナノキ、ホオノキ、ミズナラの木で冬芽を見ながら話を聞きました。冬芽は夏から葉の陰で準備されること、ホオノキの冬芽は最も大きく、2枚の芽鱗の中に裏に産毛の生えた葉が何枚も折りたたまれていることを、自宅で水栽培して開き始めた冬芽を見せながら話してくれました。ミズナラは20個くらいの芽鱗で包まれた冬芽で、樹木は北海道の森ではその保水力の高さで重要な役割を果たし、木材としても活用されていることを知ると、澄川の森の主役でもあるミズナラに一目置きたくなりますね。

次は今日のメインプログラムの修了式です。樞棒代表の挨拶の後、森しり隊員から1年間の活動の感想発表がありました。楽しかったことは、立ち木を切ったこと、野幌での植樹、下草刈り、キノコの植菌、コウモリの話と夜の森を探検し蛍を見たこと、椎茸、コクワ、山ぶどうの採集、木の高さの測定、巣箱作り等々、皆、生き生きとこの1年の活動を振り返り、感謝の言葉と、これからも森を守る活動に関わりたいという抱負などを語ってくれました。その後、ホオノキで作った修了証楯が隊員の一人一人に手渡されました。また西野澄子さんが作ったノリウツギの花がらのリースを家族に一つずつプレゼントされました。

アトラクションはまだ終わりではありません！木の上からスルスルとくす玉が下りてきて、見ると表面に隊員全員の名前が書かれています。3個の鈴がぶら下がったひもを、今年で名実ともに卒業する3人の6年生がカウントダウンの掛け声とともに引っ張ると、くす玉が割れ、枯れ葉舞い散る中に「祝 森しり隊修了おめでとう」の幕が垂れ下がりました。石飛さん丹精のくす玉は皆の歓声とともに春の青空の下に翻って修了式に華を添えてくれました。

修了式の後、再び森のイタヤカエデの元に溜まった樹液を採りに行きました。各班2本ずつのポリボトルに1/5ほどずつ溜まっていた。スパイルを外した後は、穴にイタヤカエデの枝を詰めて傷の修復をしました。酒井さんにお聞きしたところ、このくらいの傷は、樹木にとって蚊に刺された程度の影響とのことです。持ち帰った樹液を皆で味わい、予め煮詰めてシロップにしたものもクラッカーに塗って味わいました。樹液は透明で冷たくさわやかな春の森の味がしました。

1年間7回にわたり開催した親子森林教室は、森しり隊員たちにとって森の楽しみを存分に味わい、充実したものだったようです。協会員にとっても皆の成長が嬉しく頼もしく感じられました。

（文・合田）



みんなで樹液採取装置を取り付ける



修了証楯を持ってくす玉をバックに記念写真

ノリウツギ (糊空木・ユキノシタ科)

北はサハリンから南は九州まで分布する陽樹で肥沃地を好みますが、一般的には湿った所に生育している。高さ2~3mの落葉低木、澄川ではB-4地区の沢沿いに多く、E-5地区の水辺にもあります。

ノリウツギは糊を採る空木の意で、昔、手漉き和紙製造が盛んな頃、サビタ糊といって北海道のものに需要が多く、日本各地、その風土に合った和紙の文化を育てる原料となりました。ノリウツギはアジサイの仲間ですが、花の白色が白すぎて淋しいということで、あまり園芸種には使われていません。

花の形は円錐形で、両性花と外側に装飾花を付ける。別名サビタの花とも言い、この花はずっと散ることなく残り、冬の森のドライフラワーとなります。

(写真・三橋/文・西野(澄)/参考文献・おもしろい木の話)



■ 今月の幹事会

出席者(3/8):大窪・荻田・檀棒・加藤・清澤・釣井・西野(澄)・松藤・三橋・矢野

1. 2023年4,5月活動スケジュール(4月幹事会4/5(水)):了承
2. 2023年2月末会計報告:了承
3. 2022年度森林・山林多面交付金事業、2023年度計画報告:了承
4. 2022年度親子森林教室第6,7回報告と2023年度開始に向けて:4月から12家族18名参加予定。
5. 森ボラ第5期5ヵ年計画(案)の提案:風倒保全地区の見直しは次期計画時に行なう。
6. 2023年度役員・専門委員会:了承(後日三橋さんから幹事他役員辞退の申し出有り、了承。)
7. 2023年度札幌市活動許可・伐採届:活動承認通知書、伐採適合通知書を受理。
8. 現場報告
 - ・整理伐状況報告:了承
 - ・第4回じょうてつの森づくり報告:了承
9. その他
 - ・2022年度年間活動実績(2月末)報告:了承
 - ・国有林社会貢献の森(水明郷・野幌トロッポの森)協定書締結:了承
(烏柵舞は若干遅れる)

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
2月18日(土)	澄川	13	D-6,7区整理伐、集材
2月20日(月)	澄川	7	除雪(降雪と強風のため11時頃解散)
2月22日(火)	かでの2・7、10F	21	第3回冬季セミナー
2月24日(金)	澄川	11	じょうてつの森活動、D-7,8区整理伐、集材
2月26日(日)	澄川	12	自然観察会(小屋〜キャロ橋〜樹木園〜下流橋〜小屋)
3月2日(木)	澄川	14	D-6,7,8区整理伐、集材
3月5日(日)	澄川	14	第7回親子森林教室(樹液採取、冬芽観察、修了式)
3月8日(水)	ラズ生活研究センター2F	10	幹事会
3月9日(木)	澄川	14	D-5,6,7区整理伐残材調査、北地区キャロ道選点
3月11日(土)	澄川	12	D-7区整理伐、集材、北地区キャロ道選点
3月13日(月)	澄川	-	降雨、強風のため活動中止
3月15日(水)	札幌エルプラザ2F	23	第4回冬季セミナー